

新シリーズ・第4弾

★歩きやすい行程

相模川を渡る大縄文街道 “津久井宝ヶ峰” と 遺跡

- 日 時：2017年5月27日(土)
- 集 合：JR 横浜線「橋本駅」ミウヰ橋本前 **9:40**
- 解 散：JR 横浜線・京王相模原線「橋本駅」 **15:45 頃**
- 参加費（資料代、保険料含む）：一般は**1,000円/1人**
団員**700円**（団員家族は2人で**1,000円**）
- その他：弁当、飲料、雨具等、各自ご持参ください。

事前申込不要。
当日現地受付。

雨天の場合は基本的には中止。小雨の場合、実施することもあるので、当日の朝7時30分までに下記へお問合せ下さい。

（宮田）

090-7002-3431

【内容】相模川を渡る縄文人たちの目印（ランドマーク）が津久井宝ヶ峰（津久井城址）だった?! —相模野・多摩丘陵・武蔵野を合わせた「多摩縄文文化圏（仮称）」の縄文人たちが、津久井城手前の相模川付近で、山岳地帯の「諏訪八ヶ岳文化圏」の縄文人たちと出会い、黒曜石やヒスイを受け取り、海の産物（干魚や煮貝、海藻、塩など）を渡し交換していたのでしょうか。

最近になって、圏央道建設に伴う発掘調査などで、いよいよこの津久井城エリアから重要な縄文遺跡が次々に発見され注目されています。城址の東側の串川と相模川合流付近で発見された小保戸遺跡では、日本最古の可能性もある2万3千年前の旧石器時代の環状の礫群や炉が発見され、国内最古級の住宅であった可能性も指摘されています。付近の大保戸遺跡や馬込遺跡、小倉原西遺跡一帯は旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良平安・中世も含めた複合遺跡であり、これから考古学の大注目エリアになっていくことでしょう。この一帯を「縄文ロード」のベースキャンプ的な交流市場と捉え、何回かに分けて探索していきます。今回は、川尻遺跡や津久井城址東の串川沿い地帯の探索に先行して、相模川渡河の目標の山となったであろう「津久井宝ヶ峰（津久井城城址）」の根小屋周辺の古代遺跡と景観を探索します。



奥相模野縄文ロード



【コース】都合により変更の場合有り

JR横浜線「橋本駅」改札口を出て右手の「ミウヰ橋本」前に**午前9時40分集合（*10時ではないので注意）**～路線バスで三ヶ木行＝クラブ前（津久井）下車～小網諏訪神社～根古谷諏訪神社～津久井城址公園（各自弁当昼食）と津久井城址遺跡～功雲寺～尻久保沢沿い古道～雲居寺～日赤病院前バス停＝路線バスで橋本駅。解散は午後3時45分頃。歩程約5キロM（歩きやすい行程）。

*尚、津久井城址では、本丸方面には登りません（根小屋地区パークセンター付近の遺跡群のみ）。

